



平成30年12月3日

各 位

会社名 株式会社ディー・エル・イー
代表者名 代表取締役 椎木 隆太
(コード番号 3686 東証第1部)
問合せ先 執行役員 高倉 喜仁
(TEL 03-3221-3980)

(訂正) 「平成29年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成28年11月9日に開示いたしました「平成29年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正の内容と理由

訂正の内容と理由につきましては、別途、本日(平成30年12月3日)付「過年度の有価証券報告書等及び決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以上

(訂正後)



平成29年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月9日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ディー・エル・イー

コード番号 3686

URL <http://www.dle.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役

(氏名) 椎木 隆太

問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO兼経営戦略統括本部長

(氏名) 川島 崇

(TEL) 03-3221-3980

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無: 有

四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年6月期第1四半期の連結業績(平成28年7月1日~平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第1四半期	1,095	157.0	55	=	53	=	△100	=
28年6月期第1四半期	426	-	△20	-	△23	-	△132	-

(注) 包括利益 29年6月期第1四半期 △100百万円 (-%) 28年6月期第1四半期 △132百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第1四半期	<u>△5.81</u>	-
28年6月期第1四半期	<u>△7.93</u>	-

(注) 平成28年6月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成28年6月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年6月期第1四半期	<u>4,289</u>	<u>492</u>	<u>11.1</u>
28年6月期	<u>2,719</u>	<u>372</u>	<u>13.7</u>

(参考) 自己資本 29年6月期第1四半期 477百万円 28年6月期 372百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
29年6月期	-	-	-	-	-
29年6月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成29年6月期の連結業績予想(平成28年7月1日~平成29年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,641	216.8	655	=	645	=	492	=	29.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名)株式会社W media、除外 1社(社名)

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご参照ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年6月期1Q	17,567,400株	28年6月期	16,895,400株
② 期末自己株式数	29年6月期1Q	1株	28年6月期	1株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年6月期1Q	17,302,626株	28年6月期1Q	16,669,245株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がございますので、この業績予想に全面的に依拠しての投資等の判断を行うことは差し控えてくださいますようお願い申し上げます。なお、上記予想に関する事項は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っていません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、底堅さのみられる個人消費に加え、輸出・生産の持ち直しにより企業部門に改善の兆しがみられるなど、緩やかな回復傾向が続いております。一方、米国の金融緩和策縮小による影響、欧州や中国をはじめとする新興国経済の先行きに対する懸念等、海外景気の下振れリスクとなっております。

当社グループを取り巻く環境においては、スマートフォンやタブレットPCなどのスマートデバイスの普及が世界規模で急速に拡大し、それに伴い、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）、動画配信サイト、ソーシャルゲーム、コミュニケーションアプリなどの新たなサービスの利用が拡大しております。

そのような環境変化は、人々のライフスタイルを、スマートデバイス等を使い、最適メディアを選択し、必要なときに必要な時間だけコンテンツを消費し、SNS等を使って即時に情報や感動を共有するといったメディア接触方法の多様化、コンテンツ視聴の短時間化、情報共有のリアルタイム化へと世界規模で変化させ、「スキマ時間に楽しめるショートコンテンツ」といった新たな付加価値へのニーズを急速に拡大させてきました。

また、インターネット動画配信等の新興メディアの興隆で競争が激化するメディア業界においては、オリジナルコンテンツによる差別化の重要性が増してきております。

このような事業環境の中、当社では、視聴者や消費者等の多様化し変化の早い嗜好や価値観、旬な時事ネタ等を捉え、適時に対応することを強みとするファスト・エンタテインメント事業を展開し、インターネット時代にマッチしたオリジナルコンテンツを量産してまいりました。

「TOKYO GIRLS COLLECTION」においては、過去より分離していましたが「商標権」と「イベント・プロデュース会社」を統合し、事業の一体経営による意思決定の迅速化、経営効率・収益性の向上を目指すことを目的として平成28年9月1日に当社の子会社である株式会社TOKYO GIRLS COLLECTION（以下、株TGC）が、株式会社W media（以下、株W media）の株式を取得し、今まで以上にファッション・ビューティーに関する情報の発信源として日本のガールズカルチャーを世界に発信する取組みをしてまいりました。

ソーシャル・コミュニケーション領域においては、IP（Intellectual Property：主にキャラクター等の著作権や商標権等の知的財産権）を開発・取得し、動画広告等のマーケティングサービス提供及びスマートフォン向けゲームアプリやメッセージアプリ向けスタンプ等のデジタルコンテンツの企画開発・配信を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、IPの露出先の拡大や展開手法の多様化による、IP価値の成長に連動し、各サービスが順調に推移いたしました。今年10周年を迎えた「秘密結社 鷹の爪」においては、日本初のエンタテインメント型攻城戦ツアーとして戦国時代の城攻めをリアルに体感できる「鷹の爪団のSHIROZEME」を国宝「松江城」で今年も開催するとともに同イベント内で使用することができるVR360度動画ビューワーアプリ第一弾である「イニシエスコープ」をリリースするなど、従来のアニメーション領域から大きく拡大しました。また、「パンパカパンツ」においては、ナショナルクライアントへの全国プロモーションを拡大するとともに、過去連続してダウンロード1位を記録しているLINEスタンプに続き、LINE公式着せかえでも1位を獲得しました。さらに、「貝社員」においては、全国29局ネットで放送されている朝の情報エンタテインメント番組内で「朝だよ！貝社員」として継続的に放送を行い認知度を拡大いたしました。そして、デジタルコンテンツにおいては累計200万ダウンロードを記録したスマートフォン向けゲームアプリ「おそ松さんのへそくりウォーズ～ニートの攻防～」において新規イベントを実施するとともに、「おそ松さん」シリーズ初のLINEポップアップスタンプを制作するなど、事業領域を順調に拡大いたしました。また、大人気コミック『GANTZ』の新作フル3DCGアニメーション映画『GANTZ：0（ガンツ：オー）』の公開を記念し、スマートフォン向けゲームアプリ「GANTZ：タップ・バトル・ロワイアル」を企画・開発・運営し、配信することが決定いたしました。

「TOKYO GIRLS COLLECTION」においては、株W media主催の下「TOKYO GIRLS COLLECTION'16 A/W」が開催されました。同イベントでは「おそ松さん」とのスペシャルコラボレーションが行われ、松野家6つ子のランウェイデビュー、併設会場でのオリジナルグッズの販売をいたしました。また、当社、株TGC、株W mediaの共同開発キャラクターの開発に着手するなど、グループシナジー効果を最大限に発揮できる取組みを行ってまいりました。さらに、10年間に渡りトレンドを生み出し続けてきたプロデュース力と、インフルエンサーの発掘・育成を行ってきたノウハウを活かし、インフルエンサーマーケティング事業を新規に開始するなど、事業領域・規模を急速に拡大させております。

IPクリエイション領域においては、IPの新規開発及び映画・TV・ネットメディア等の映像コンテンツの企画開発・制作及び総合的なプロデュースを展開しております。

当第1四半期連結累計期間においては、各IPのTVシリーズ・WEBシリーズの継続により認知度向上及び世界観醸成に努めるとともに新規映画作品の公開等を行いました。特に「秘密結社 鷹の爪」においては10周年記念施策として「鷹の爪8 ～吉田くんの×ファイル～」を公開いたしました。「パンパカパンツ」においては、テレビアニメシリーズの全国放送を継続するなど順調に推移いたしました。また、実写映画プロデュースでは「ディストラクション・ベイビーズ」が、今年で69回目を迎える、ヨーロッパを代表する国際映画祭「ロカルノ映画祭」で「新進監督コンペティション部門 最優秀新進監督賞」を受賞するとともに、平成28年11月から先行公開が行われる「古都」が文部科学省特別選定作品（青年向き、成人向き）、文部科学省選定（少年向き）に決定するなど、多様なコンテンツの創出、事業規模の拡大を行っております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,095,248千円（前年同四半期比157.0%増）、営業利益は55,500千円（前年同四半期は20,933千円の営業損失）、経常利益は53,238千円（前年同四半期は23,415千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純損失は100,465千円（前年同四半期は132,224千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となっております。

なお、当社グループは、ファスト・エンタテインメント事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載はしていません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して1,569,562千円増加し、4,289,530千円となりました。これは、現金及び預金55,748千円、受取手形及び売掛金577,522千円、のれん721,434千円の増加を主要因とするものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比較して1,449,487千円増加し、3,796,995千円となりました。これは、買掛金684,159千円、前受金289,030千円、長期借入金297,928千円の増加を主要因とするものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して120,074千円増加し、492,534千円となりました。これは、資本剰余金171,108千円の増加及び親会社株主に帰属する四半期純損失100,465千円の計上を主要因とするものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年10月4日の「連結決算開始に伴う連結業績予想および個別業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社TOKYO GIRLS COLLECTIONは、株式会社W mediaを取得し、同社を子会社化（当社の孫会社化）しております。

なお、当第1四半期連結会計期間より、株式会社W media及びちゅらっぶす株式会社の計2社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	599,494	655,242
受取手形及び売掛金	481,477	1,059,000
商品及び製品	42,840	45,470
仕掛品	382,888	325,936
その他	412,253	640,493
貸倒引当金	—	△1,093
流動資産合計	1,918,955	2,725,049
固定資産		
有形固定資産	—	17,703
無形固定資産		
商標権	680,662	662,989
のれん	—	721,434
その他	—	1,751
無形固定資産合計	680,662	1,386,175
投資その他の資産		
その他	120,349	160,601
投資その他の資産合計	120,349	160,601
固定資産合計	801,012	1,564,480
資産合計	2,719,968	4,289,530
負債の部		
流動負債		
買掛金	177,271	861,430
短期借入金	200,000	225,000
1年内返済予定の長期借入金	328,726	420,268
未払法人税等	180	2,555
賞与引当金	—	9,000
前受金	384,240	673,271
その他	240,222	290,674
流動負債合計	1,330,640	2,482,199
固定負債		
長期借入金	1,016,868	1,314,796
固定負債合計	1,016,868	1,314,796
負債合計	2,347,508	3,796,995
純資産の部		
株主資本		
資本金	756,385	784,609
資本剰余金	533,705	704,813
利益剰余金	△917,948	△1,011,475
株主資本合計	372,141	477,947
新株予約権	318	318
非支配株主持分	—	14,268
純資産合計	372,459	492,534
負債純資産合計	2,719,968	4,289,530

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)
売上高	426,142	1,095,248
売上原価	261,048	749,251
売上総利益	165,093	345,996
販売費及び一般管理費	186,026	290,495
営業利益又は営業損失(△)	△20,933	55,500
営業外収益		
受取利息	57	36
その他	—	1
営業外収益合計	57	37
営業外費用		
支払利息	857	1,718
株式交付費	—	500
その他	1,681	80
営業外費用合計	2,538	2,300
経常利益又は経常損失(△)	△23,415	53,238
特別損失		
減損損失	108,809	102,279
特別損失合計	108,809	102,279
税金等調整前四半期純損失(△)	△132,224	△49,041
法人税、住民税及び事業税	0	51,424
法人税等合計	0	51,424
四半期純損失(△)	△132,224	△100,465
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△132,224	△100,465

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失(△)	△132,224	△100,465
四半期包括利益	△132,224	△100,465
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△132,224	△100,465
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはファスト・エンタテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(共通支配下の取引等)

当社の連結子会社である株式会社TOKYO GIRLS COLLECTIONは、平成28年10月21日の取締役会において、同社の子会社である株式会社W mediaを、平成29年1月1日を効力発生日として吸収合併することを決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業又は対象となった事業の名称及び当該事業の内容

① 結合企業

企業の名称	株式会社TOKYO GIRLS COLLECTION
事業の内容	「TOKYO GIRLS COLLECTION」の商標権を活用したビジネス

② 被結合企業

企業の名称	株式会社W media
事業の内容	TOKYO GIRLS COLLECTION等のライブイベントの企画・制作・運営事業、メディア事業、プロモーション事業、プロダクトアライアンス事業、海外事業等

(2) 企業結合日

平成29年1月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式会社TOKYO GIRLS COLLECTIONを存続会社、株式会社W mediaを消滅会社とする吸収合併方式

(4) その他取引の概要に関する事項

株式会社TOKYO GIRLS COLLECTIONは、主に「TOKYO GIRLS COLLECTION」の商標権を活用した、イベントプロデュースを除く幅広い事業を、株式会社W mediaは、主に「TOKYO GIRLS COLLECTION」の商標権を活用したイベントプロデュース事業を展開しております。本合併により一体的な事業運営をすることで、「TOKYO GIRLS COLLECTION」ブランドの価値最大化及び経営の効率化を図るものであります。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定です。